

1 「本質的な問い」による単元(題材)構想について

- 本単元の本質的な問いに対して、昨年度の取組よりさらに視点を広げて、地域とどう関わり、地域のために何ができるか考えを深めることができた。また、ほとんどの児童がもっと地域と関わりたいという気持ちを高めた。その理由として、地域の人と一緒に活動することをきっかけに安全マップの改訂版作成を依頼されたことや、単元のゴールとしてイルミネーションづくりに関わったことにより「地域の役に立っているという実感」「アイデアが採用された達成感」「自分の疑問や考えを伝えられる喜び」等、地域の一員としてのやりがいを感じたことが挙げられる。

2 単元(題材)で育成を目指す資質・能力について

育成を目指す資質・能力に関するアンケートの1学期と2学期の比較

- ① 両城で起こりやすい災害について知っている。【知・技】 50.0% → 95%
- ② 課題解決するために、進んで資料や情報を集めている。【知・技】 60.9% → 90%
- ③ 課題について、「なぜだろう」「やってみたい」と思う。【思・判・表】 80.8% → 95%
- ④ 友達と話し合いながら、自分の考えを広げたり深めたりしている。【思・判・表】 83.4% → 95%
- ⑤ 学習後、「もっと調べたい」「もっと考えてみたい」と考えている。【主】 74.7% → 90%

【知識・技能】

- 防災の視点からみた地域の特徴や地域を活性化する人々の取組について、学習前より知ることができた児童が2倍近くになった。情報収集については、「インターネットだけでなく、地域に出向き自分の足で情報を集めることにより選択肢が増えた」「目的に合った資料が集められるようになった」と児童自身に自分の成長を実感させることができた。

【思考力・判断力・表現力】

- 集めた情報を整理したりまとめたりする際に、「自分が気付かなかったことに友達が気付いてくれた」「自分は安全と思っていたけど友達がこうだから危険と説明してくれたり、逆の場合もあったりして考えが広がった」「みんなが自分の良い所を見付けてくれた」など、学び合いにより思考や判断が深まり、自分の考えが広がったと感じている児童が増えた。安全マップの改善策やイルミネーションの図案の提案では、地域の人や保護者に伝わるように内容や方法を考え表現することができた。発表を聞いてもらった保護者からアンケートを取り、さらに表現の仕方や内容を改善することができた。

【主体性】

- 自分たちができることを考え主体的に地域に貢献したいと思っている児童が増えた。「危険な所だけでなく、この町の良い所をもっと調べたい」「災害や防災以外のことでも地域と交流したい」などこれからの課題を見付けている。「町の歴史や文化、学校の歴史も知りたくなった」と6年生の総合的な学習の時間につながる課題をもっている児童もいる。
- 地域の人と一緒にできることを自分たちで考えたいと思っていた児童と、イルミネーションづくりの計画を実行したい教師との意識のズレが生じた。最初に地域の願いとしてイルミネーションづくりを提示しておけば良かった。

3 「デジタル機器」の活用

- 安全マップの見直しを3つの視点に沿ってYチャートで整理した。班で話し合う際、「共有ノートを使ったので意見交換がしやすかった」と児童も実感している。また、発表した班がそのアドバイスを受けるときや、その他の班が意見交流の様子を知るときに画面を共有することにより、伝わりやすくなり時間を有効に使うことができた。



別紙様式